

# 介護保険、もうすぐ三歳

平成12年4月に介護保険制度がスタートしてから、3年が経過しようとしています。現在、市は、平成15年度から平成19年度までの5カ年の介護保険事業計画を策定しています。今号では、介護保険制度の概要をもう一度確認しながら、市民を対象としたアンケートの結果などをもとに、介護保険のニーズやサービスの利用状況、制度への満足度など、介護保険の現状についてQ & Aでお知らせします。



## 介護保険制度と高齢化の状況

**Q1** 保険料の支払いも大変。『介護保険制度』って本当に必要なのですか？

**A1** 私たちの国は、高齢化の坂を急速に駆け上がっています。今後、高齢化の進展に伴って、寝たきりや痴ほうの高齢者が急速に増えることが見込まれ、また、介護期間の長期化や介護する家族の高齢化などで、家族による介護では十分な対応が難しくなってきました。

今日、介護問題は、私たちの老後生活の大きな不安要因の一つとなっています。

介護保険制度は、老人福祉と老人医療に分かれていた高齢者の介護に関する制度を再編成し、利用しやすい公平で効率的な社会的支援システムを構築するもので、家庭での介護能力が低下し、限界が生じてきた状況のもと、介護を必要とする高齢者が住み慣れた地域で自立した生活を送ることができるよう、社会全体で支援しようと設けられ、平成12年4月からスタートしました。

40歳以上の全国民が被保険者として保険料を納め、介護が必要になったとき、申請により認定を受けて各種のサービスを介護サービス計画（ケアプラン）に基づいて受けることができるようになりました。

**Q2** 私たちのまちの高齢化の状況はどうなっているの？

**A2** 表1・表2をご覧ください。市の人口は、市制を施行した昭和45年の4万6千526人から徐々に増加し、昭和58年の5万9千481人をピークに、以後、人口の減少がわずかながら続いており、平成14年（10月1日現在）の人口は5万4千993人になっています。

65歳以上の高齢者人口は、昭和45年の2千63人から平成14年（10月1日現在）の1万1千792人まで増加を続けています。

高齢化率（1）では、市は昭和45年に全国や全道より低かったものが、平成に入ってから全国や全道を上回る状況になっており、今後も高齢化が進むことが予想されます。

1 高齢化率：総人口に占める65歳以上人口の割合

日本の高齢化の現況

国立社会保障・人口問題研究所の『日本の将来推計人口』によると、総人口は平成18年（2006年）にピークを迎えた後、減少に転じますが、高齢化率は上昇を続け、平成37年（2025年）には28・7%（4人に1人が高齢者）、平成62年（2050年）には35・7%（3人に1人が高齢者）になると見込まれるなど、21世紀中にいまだかつてない超高齢社会を迎えると推測されています。